読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

真庭市の樫邑小では、地元住民との交流イベントに力を入れています。記事を読み、質問に答えましょう。

全校児童８人 手作りイベント次々企画

樫邑小(真庭) 地域交流盛んに

全校児童8人の樫邑小（真庭市樫西）は児童が多くの人とふれあえる機会をつくろうと2022年度、地元住民との交流イベントに力を入れている。これまでに三つの催しを次々に実施。地域からも子どもたちとの関わりを喜ぶ声が上がっている。（中浜汐里）

樫邑小で開かれたボッチャ大会を楽しむ児童と地域住民

ボッチャやステージ発表 住民ら関わり喜ぶ

「今日は地域の方と交流ができるのを楽しみにしています。けがのないようにしましょう」。同小体育館に、5年金崎大和君(10)の声が響いた。昨年12月中旬に開かれたボッチャ大会冒頭のあいさつだ。

ボッチャはボールを投げたり転がしたりして目標球にどれだけ近づけられるかを競う競技で、年齢や障害の有無にかかわらず楽しめる。この日は児童と地域の高齢者ら計16人が参加し、4チームに分かれて試合を行った。

当日の進行や、本番に向けてチラシを作るといったPR活動など、会は児童主体で開催。優勝したチームへのメダルや参加賞のミサンガも、児童が手作り品を贈った。

6年幸村恵太君(12)は「緊張したけどいい会にできた。地元の人が喜んでくれてよかった」、参加した岡本令子さん(85)＝樫東＝は「すごく楽しくて、若返った気分。子どもたちからイベントに誘ってもらえるのは非常にありがたい」と、会場に笑顔が広がった。

同小では本年度、ボッチャ大会のほか、地元の歴史を学ぶ「樫邑学」（昨年6、11月）、児童らがステージ発表を繰り広げる「KASHIMURA芸術祭」（同11月）と、地元住民を招いた催しを初めて開催した。

坂手英俊教頭は「子どもの人数が少ない分、多くの人と交流してさまざまなことを知るきっかけをつくれたら。今後も地域の中の学校でありつづけたい」と話している。

優勝チームには手作りのメダルが配られた

つれづれ

「ぜひ、取材に来てください」。昨年12月のこと。樫邑小5年の金崎大和君から支局へ、電話で丁寧な取材依頼がありました。児童主体で開催したボッチャ大会は、マスコミへの案内も子どもたちが行っていましたが、そもそもなぜ児童はボッチャ大会を企画したのか。先生に聞くと、事前に地域の人に、地元の長所を知ってもらいたいと地域の人の良さを知りたい」と、人と交流できるスポーツ大会を開催したとのことでした。

報道陣にも温かいお茶が振る舞われ、「雪道だから、帰りは気をつけてね」と声もかけてくれて…。取材をした私も確かに人の温かさを感じられました。

アンケートで訪ねたことがきっかけだそうです。回答は「樫邑の人は温かい」など人の魅力を挙げたものが多く、子どもたちは「もっと地域の人と交流したい」と、人と交流できるスポーツ大会を開催したとのことでした。

報道陣にも温かいお茶が振る舞われ、「雪道だから、帰りは気をつけてね」と声もかけてくれて…。取材をした私も確かに人の温かさを感じられました。

児童からはミサンガをもらい、毎日腕に着けています。切れると願いがかなうといわれているので、樫邑小はもちろん、真庭支局管内の真庭市、新庄村の子どもたちがのびのびと成長できるようにと願いを込めて、身に着け続けようと思います。（中浜汐里）

14日付山陽新聞、作州ワイド版

Q1 樫邑小は地元住民との交流イベントに力を入れることで、どんな機会をつくろうと考えているでしょうか。第１段落に注目です。

Q2 昨年12月に開かれたボッチャ大会は児童主体で開催されました。児童はどのようなことをしましたか。第４段落から具体的な役目をまとめましょう。

Q3 皆さんが住む地域で、地元の人たちと一緒に楽しめるイベントを考えてみましょう。

過去の問題はこちらから▶▶

◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。